

| | | |
|-------------------------------|--|---|
| <p>プログラム名</p> | <p>森林へ行こう ～「木の葉のイロハ」「落ち葉の123」～</p> | |
| <p>実施団体</p> | <p>○団体名：水魚方式研究会 ○代表者名：西林 久美子 ○電話：022-279-9104 ○FAX：022-279-9104 ○住所：仙台市青葉区水の森3-27-7 リバハウス101 ○E-Mail：suigyonokai@ybb.ne.jp</p> | |
| <p>対象者</p> | <p>小学5～6年生、中学生、高校生、成人、高齢者</p> | |
| <p>対象人数</p> | <p>100人まで</p> | |
| <p>学習場所</p> | <p>台原森林公園</p> | |
| <p>学習時間</p> | <p>2時間（1時間半～2時間半の間で調整可能）</p> | |
| <p>実施時期</p> | <p>4～10月</p> | |
| <p>準備物品・費用等 （講師謝金を除く）</p> | <p>実施団体側</p> | <p>虫メガネ、携帯顕微鏡、図鑑類</p> |
| | <p>利用者側</p> | <p>筆記用具、クリップボード（学年単位で参加の場合のみ）、 学習場所までの交通費、傷害保険料</p> |
| <p>事前打ち合わせ</p> | <p>学習実施日の14日前までに面談</p> | |
| <p>効果的な学習段階</p> | <p>特別に環境や自然について学習していなくても、森林散策をしながら、樹木についての入門的な知識を獲得し、自然に対し関心を持つことができるようになる。</p> | |
| <p>学習概要</p> | <p>1. 学習のねらい</p> | |
| | <p>樹木は、地面に根を張り、たくさんの葉で光合成を行い、われわれ人間を含む動物の命を支えている。地球生命の源であると同時に、地球環境を健全に保つために不可欠な存在である。その樹木の「葉」に着目して、森林の散策を楽しみながら、樹木についての入門的な知識を獲得し、樹木を大切にすることを育てる。</p> | |
| | <p>2. 学習する内容</p> | <p>3. 学習のポイント</p> |
| | <p>(1) さまざまに見える木の葉も、大きく8種類に分けられると知る 集合場所近くの形の異なる何種類かの木の葉をサンプルにして、葉の種類分けを認識する。時間があれば、紙芝居でより分かりやすく説明も可。ピンゴ形式のワークシートを使用して学習。</p> <div data-bbox="269 1473 735 1749"> </div> <div data-bbox="748 1473 1024 1749"> </div> <p>(2) ワークシートを持って、グループ単位で自由に樹木を観察しながら散策</p> <div data-bbox="269 1863 617 2123"> </div> <div data-bbox="632 1863 1024 2123"> </div> | <p>メタセコイヤ、マテバシイ、コウヤマキなど、みんな葉の形が異なるが、「葉っぱの絵」を描いてもらうと、大概の子どもが、下図のような通常の葉かモミジの葉のような形を書く。葉には他にもさまざまな形があると同時に、ただ「さまざま」なだけでなく、「8種類の仲間に分けられる」と知ることによって（葉の多様性と類型性を認識することで）、1本1本の木も見分けやすくなる。</p> <div data-bbox="1257 1693 1437 1816"> </div> <p>どちらの木が先に生えたのか、散策していると興味深い場面にも遭遇。 森林の中を歩くと「なぜか心地よい」と感じることも、大切な環境学習。</p> |

(3) 途中にチェックポイントを設け、当会スタッフが立っている
それぞれで、「ウルシにご用心」「ヒノキとサワラの見分け方」
などのテーマで短時間のレクチャー。



(4) 落ち葉が朽ち、徐々に土に還っていく様子を観察



(5) ゴールに用意してある何種類かの樹木を見て、印象に残った木
があるか、名前を覚えた木があるかなどのチェック
季節により、例えば、ウワミズザクラ（春）、カツラ（秋）
など香気を放っている木、目立つ花が咲いている、実がなっ
ている、葉っぱの形が面白いなど、印象に残りやすい木を選
んでチェック樹木とすることで、学習の定着を図る。

森林の中には、ウルシのように、
触ったり折ったりすると危険な木も
ある。危険を学び避けながら、全
体として森林に親しめるようにして
いる。

ヒノキ、サワラは、葉の裏で見分
ける。同じように見える葉が、裏返
すと微妙に異なっていて、しかも、
それがアルファベットの異なる字に
見えて楽しい。楽しむことで、樹木
に対する親しみが生まれ育つ。

葉っぱは光合成を通じCO₂を吸
収し、温暖化防止に重要な働きをし
ているが、光合成の役割を終え地
面に落ちると、地中の虫や微生物、
菌類の働きにより、土に還って行く。
この土があっこそ、また植物は
地面に根を張ることができ、生命の
健全な循環も可能になる。普段あま
り眼にすることのない土中の世界、
葉が少しずつ形を失い土に還る様子
をしっかり見る。

マテバシイの実を石で割って食す
る楽しみも（10月）。季節により森
林の状態が異なるため、季節ごと
に、印象に残りやすい木も異なる。



4. 学習のまとめ

樹木の構成要素としては、根、茎、葉などあるが、中でも葉は一番多様性に富み、芽吹き・繁茂・紅葉・落ち葉など変化に富んでいるため、樹木ごとの特性が把握しやすい。また、落葉後も、小動物たちの食料および隠れ家、保温、保湿等の機能を果たした末に、再び樹木を大きく育てるための腐葉土へと変化していく。この「葉」を中心に、樹木についての識別能力を高め、それまでよりも樹木に対し、親しい感情を抱くことで、身近な樹木もより認識しやすくなる。台原森林公園以外でも、その樹木に出会ったときに、そうと認識できるようになると、自分なりの樹木マップを作ることができ、急速に樹木への認識が増していく。

追加・変更できる
学習内容

午前・午後で、計4時間近くの時間が確保できるようであれば、当会の学習プログラム「台原森林公園 モス・グリーン・アドベンチャー」（コケの学習）と組み合わせることも可能。

事前・事後学習に
ついての助言

台原森林公園の木は特別な木ではなく、そのほとんどが学校や近隣や街路樹などで見ることが出来る。台原森林公園で「気になった木」「好きになった木」などについて、事後学習の時間を持ってもらえると、「その木なら、どこにある」というような子どもたち同士の情報が交換でき、一層、樹木に対する知識や親しみが増すと期待できる。

雨天時の学習内容

雨天の場合は延期

プログラムの詳細

<http://www.feel-sendai.jp/program/shinrin.html>